




おおさか  
ミュージアム  
トリップ



大阪の宝が今、姿を現す。

地方独立行政法人大阪市博物館機構 Administrative Agency for Osaka City Museums

お問い合わせ先 所在地：〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 大阪歴史博物館内  
電話：06-6940-4330 (代表) FAX：06-6940-0551

大阪博  
詳細はこちら 



目次

イントロダクション ..... 1

大阪市立美術館 ..... 3

大阪市立自然史博物館 ..... 5

大阪市立東洋陶磁美術館 ..... 7

大阪市立科学館 ..... 9

大阪歴史博物館 ..... 11

大阪中之島美術館 ..... 13

大阪の宝が今、姿を現す。

2025年大阪・関西万博に合わせて、大阪市立美術館・大阪市立自然史博物館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立科学館・大阪歴史博物館・大阪中之島美術館の6館では、「大阪博」を開催します。大阪には、古代から現代に至るまで、都市の繁栄とともに先人たちが収集、継承されてきた「大阪の宝」があります。今回はその中でも、特にその収集に関わった先人や継承の履歴を通じて、それらを育んできた都市大阪の魅力を体感できるような代表的な作品120点を「大阪の宝」とし

て選定し、「大阪博」で披露します。新たな知的好奇心を呼び起こす「大阪の宝」web展覧会をはじめ、ミュージアムを巡って遊ぶプランや観光情報など、多彩なコンテンツを発信します。大阪に暮らす人々と、この街に集う人々のためのミュージアムが開催する「大阪博」。本誌では6館の見どころをご紹介します。文化都市・大阪に残されてきた宝との出逢いと、人々が紡ぎ出してきた街にあふれる大阪の力を、どうぞお楽しみください。

アイコンの説明

- 🏠 住所
- ☎ 電話番号
- 🕒 開館時間
- 🗓 休館日
- ♿ アクセス
- 🎫 チケット情報
- 🗣 音声ガイド
- ♿ 障がい者アクセス
- 🔄 おむつ交換台
- ☕ カフェテリア
- 👨‍👩‍👧 子供連れ対応
- 🌐 ウェブサイト
- 📱 SNS

地方独立行政法人大阪市博物館機構発行  
初版発行 2024年1月



令和5年度日本博2.0事業(補助型)  
(独立行政法人日本芸術文化振興会/文化庁)



リニューアルイメージ図

天王寺って聞くと、なんだかワクワクしますよね。ここは大阪の昔と今がクロスする不思議な場所。6世紀からの歴史を感じさせる四天王寺があり、新世界エリアの懐かしの風景が色濃く残る一方で、あべのハルカスのような現代の超高層ビルも立ち並んでいます。

このエリアの一角にある天王寺公園内には、1930年代に足を踏み入れたかのような雰囲気の大阪市立美術館があります。かつて住友家が所有していた土地に建てられ、すぐそばには「慶沢園」という、京都でその名を

馳せた庭師、小川治兵衛が手がけた庭園もあります。そばには天王寺動物園もあり、大阪のど真ん中とは思えないほどの自然が広がっています。

美術館は長らくの建設停止期間を経て、世界恐慌と自然災害を乗り越え、1936年によりやくオープンしました。中に入れば、目を見張るような大理石の輝きが、まるで時間旅行をしているような気分させてくれます。コレクションは、遠い国の貴重な美術品から、ここアジアの宝物まで、多岐にわたります。特に、アジアの古美術作品は訪れる人々を魅了し続けています。

この美術館、展示だけではなく、その建物自体が登録有形文化財(建造物)に指定されています。また、約8,500件の館藏品と社寺などからお預かりしている作品を随時展示し、地域の人たちが日本の美術にふれあう場所としても大事にされており、日本の美術の発展に貢献しています。

美術館の玄関を出たら、「てんしば」という広々とした芝生エリアが待っています。そこに並ぶレストランで美味しいご飯や一息つくドリンクを楽しみながら、大阪のアートと文化を満喫するなんて、いい午後の過ごし方だと思いませんか？



## 学芸員が語る Museum Column



日本中近世絵画 学芸員 知念 理

偶然のめぐり合わせで  
浮かび上がった、一人の画僧。

もともと美術が好きでしたが、日本美術史の道に進んだのも学芸員になったのも、大学での先生方との出会いやタイミングなど、自分で選んだというより何かのご縁に導かれてここまで運ばれて来た、という感覚です。この屏風の作者を突き止めたのも、そんな偶然の積み重ねでした。学芸員歴も30年を越え、「終活」を意識しはじめた頃、美術館の改修工事にあたって収蔵庫を再調査していると、「独長筆」の落款はありながら、その素性がわからず所藏品台帳の作者名が空欄になっている屏風に気づきました。資料が少なく研究不十分の作品は珍しくありません。そのときは「こうした作品にもいつか光が当たれば」と思った程度でしたが、驚いたことに数日後、ダンボール詰めしようとしていた資料の中に「独長」の名前を見つけたのです。それは独長性亨という臨済宗画僧の存在とその制作活動を明らかにした論文で、私はすぐ独長の作品を所蔵する寺々を訪ね、屏風の作者が独長性亨であることを確認しました。30余年の学芸員人生、「美術史を揺るがす大発見」とはいかずとも、43年ぶりに所藏品台帳の筆者名を更新するチャンスくらいは訪れるものだ、と不思議な運命のめぐり合わせに胸が高鳴りました。



どくちょうしゅうきょう ははちょう  
独長性亨筆《竹に吠々鳥図屏風》6曲1隻  
江戸時代・17世紀(田万コレクション)



## 大阪市立美術館



〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82(天王寺公園内)
06-6771-4874
9:30~17:00(入館は閉館の30分前まで)
月曜日(祝日・休日の場合は翌平日)、 年末年始
JR「天王寺」中央口改札、 Osaka Metro御堂筋線・谷町線「天王寺」 15・16号出口、 近鉄「大阪阿部野橋」西改札、 阪堺電軌上町線「天王寺駅前」 いずれも北西へ約400m
www.osaka-art-museum.jp/
Insta/X: @ocmfa_since1936

休館期間：2022年9月26日~2025年春ごろ



## リニューアル情報

※イメージ図

1936年の開館以来、最大規模となる改修工事を行っています。リニューアル後は、慶沢園を一望できるカフェが併設される予定です。2025年春ごろのリニューアルオープンをどうぞ楽しみに！



2002年のFIFAワールドカップで世界が注目した長居公園には、生命の歴史を深く掘り下げる大阪市立自然史博物館があります。ここには、大阪をはじめとした自然の息吹を紡ぐおよそ1万点の展示資料がズラリ。訪れる人々に生態系の豊かな物語を伝えています。

入口前には博物館の目玉であるナガスクジラ、ザトウクジラ、マッコウクジラの巨大な骨格標本が展示されており、圧倒的な存在感を放っています。そして、迫力満点のナウマンゾウの復元模型が迎えるロビー「ナウマンホール」は、まるで先史時代まで時間を遡ったかのよう。人々が自然とどう共存してきたのか、そしてその歴史を今に伝える展示が並びます。

展示室「身近な自然」からスタートする旅では、大阪という都市が抱える自然環境の多様性を探求できます。ここでは外来種の問題にも触れ、外国を行き来する船や飛行機にまぎれこんだり、偶然持ちこまれたりした生き物や植物の種など、私たちの生活に意外な形で影響を及ぼす生物たちの話が紹介されています。また、恐竜の足の骨や大きな貝など、実際に触ることができる展示が館内にあるほか、2階にある三つの展示室「生命の進化」、「自然のめぐみ」、「生き物のくらし」では、人類を含むすべての生物種が生態系内でどのような役割を果たしているかにスポットが当てられています。

教育的なイベントも豊富で、自然観察会やワークショップ

プなどは自然への知的好奇心を育む場として人気です。特別展や講演会を定期的開催し、知識の探求と共有に努めるこの博物館は、自然保護の大切さを広く伝える活動の中心地。また災害で損なわれた貴重な標本を救う取り組みも行っており、博物館としての役割を地域社会に深く根付かせています。

大阪市立自然史博物館は、都会の中で自然を感じられるオアシス。ぜひ、この場所できれいな探求の旅に出かけてみてください。



## 学芸員が語る Museum Column



植物生態学 学芸員 横川 昌史

海を渡り崖を越え。  
植物のためならどこへでも。

植物相研究は、個々の地域にどのような植物が生育しているのかを明らかにする分野です。生育している植物は時代によって変化するため、各地でフィールドワークを行い、採集した植物の標本を作って研究に役立てます。この一連の研究活動が、私の推し活そのもの。調査のためには高い山でも断崖絶壁でも飛んで行きますし、根から葉っぱまでキレイに採られた標本を見ていると時間を忘れます。このモウコガマは、北海道奥尻島で別の植物をめざしてコンクリート壁を乗り越えたときに、偶然見つけたもの。ガマという植物をご存じの方は多いと思いますが、その一種であるモウコガマは在来種か外来種かも不明の謎の植物です。別の研究者から、北海道には在来のモウコガマがいるのでは?との説を耳にしており、見つけたときは「まさか!?!」と大興奮!すぐに採集し、過去の文献や道内の標本庫の調査から、奥尻島の新産植物として報告しました。皆さんにはただの植物に見えても、研究者にとっては大発見なのです。標本は採集者の名前や採集した日付・場所を記載して研究資料として保管されるため、後年の研究者が「過去に横川という人がモウコガマを見つけたんだ」「興奮しながら採集したのかな」なんて考えるのかと思うと、研究者冥利に尽きます。



横川さんが採集したモウコガマの標本



大阪市立自然史博物館



〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23
06-6697-6221
9:30~17:00(11~2月は16:30閉館) (入館は閉館の30分前まで)
月曜日(祝日・休日の場合は翌平日)、年末年始
Osaka Metro御堂筋線「長居」3号出口より約800m、 JR「長居」東出口より約1km
大人300円、高大生200円、中学生以下無料 ※特別展は別料金
www.omnh.jp/
Facebook: facebook.com/osakashizenshi/ X: @osaka_shizenshi Insta: @osaka_shizenshi_koho



## 見どころ

博物館が所蔵する珍しい蝶などのコレクション。世界中から集めたこの膨大なコレクションを見ると、それらのさまざまな形態だけではなく、棲息地に合わせて進化してきたこともわかります。



あっという間に心を奪われる、それが大阪市立東洋陶磁美術館の魅力です。1982年の開館当初から、この場所はまさに陶磁器の宝箱。中国の後漢から明の時代を彩る美しき144点、そして高麗から朝鮮王朝にかけての韓国の逸品793点が、ここに根を下ろしました。安宅コレクションとして知られるこれらの名品は実はかつて散逸の危機にありました。しかし、住友グループによる安宅コレクションの一括寄贈の申し入れにより、無事に大阪市の宝となりました。

時は流れ、この場所のコレクションはさらに豊かなものとなりました。中国・韓国陶磁を中心に、特に李秉昌博士の韓国陶磁の寄贈品が加わり、その数、なんと5,732点にもものぼります。来館者の声に応えるかたちで、日本の作品も90年代初頭に数多く集められ、今や民藝運動で知られる人間国宝の濱田庄司の作品など、貴重なコレクションの一部を形成しています。

展示では、およそ300点の作品がじっくり鑑賞でき

るように、時代や技法に応じて展示されていて、その中には国宝2点、重要文化財13点も含まれています。また、現代陶芸コーナーでは現代の作家たちの新しい息吹を感じることができます。さらに、陶磁研究にも力を入れているそう。

パワフルな中国の陶磁は、明るい展示室でその鮮やかな色彩を存分に楽しめます。一方、韓国の陶磁は天井が低く落ち着いた照明のもと、より静謐な雰囲気で見賞することができます。日本陶磁の展示室では、床に近い位置に展示されていて、まるで和室で鑑賞しているかのような心地よさ。特に独自の自然採光展示室で見る青磁は、やわらかい日差しの中でその美しさが際立ちます。世界で初めての自然採光展示では、青磁が見せるアッシュグレーからターコイズブルーへの繊細な色の変化に驚くはず。また、沖正一郎コレクションからの、1,200点にのぼる中国の嗅ぎ煙草の容器である鼻煙壺のコレクションも見どころの一つ。

日本語だけでなく、英語の解説も充実。土と水と火の融合から生まれる、時空を超える美しい陶磁器を世界中の人々に紹介しています。

大阪市立東洋陶磁美術館の芸術と歴史が織りなす、この独特な空間で感性を磨き、インスピレーションを得るひとときをお楽しみください。美術館でお会いしましょう!



## 学芸員が語る Museum Column



陶磁器 学芸員・館長 守屋 雅史

やきものにひたる日々の中、  
2つの窯の関係性に夢中!

学生時代は考古学研究に励み、博士課程後期に進むつもりが、縁あって大阪市立美術館の学芸員に採用されて30余年。幾多の展覧会に携わりながら、時代も国も関係なく幅広いジャンルのやきものに触れてきました。2022年度からは大阪市立東洋陶磁美術館の館長に就任し、国宝を含む優れた作品を所蔵する当館で、やきものにひたる至福の日々を過ごしています。中でも私を魅了するのは、中国の北宋時代から元時代にかけて発展した定窯と磁州窯という2つの窯の関係性です。民間向けに日用品を生産する磁州窯は、定窯が作る貴族好みの美しい白磁器を真似ようと、やきものの素地に白化粧を施しますが、技術や素材の質が劣るため方針を転換します。白化粧の上にさらに黒泥をかけ、黒泥を削って文様を描く「白地黒掻落」という手法を考案し、これが民間に大流行。すると今度は定窯が、「そんなに流行ってるならウチでも」といった具合に、掻落の手法と磁州窯風の図柄を取り入れるように。真似するほうが真似されて、立場が逆転したわけです。作品を比較すると、磁州窯作品は一見高級に見せつつも、底に近い目立たない部分は手をぬいたような仕上がり。一方、定窯作品は細部まで職人技が行き届いていて、手法は同じでも2つの窯の違いがよく表れています。こうした作品の背景にある人間模様を探ることも、陶磁器を味わう楽しみ方の一つです。



はくじしゅうか ぼたんからくさもんへい  
白磁鏤花 牡丹唐草文 瓶



大阪市立東洋陶磁美術館



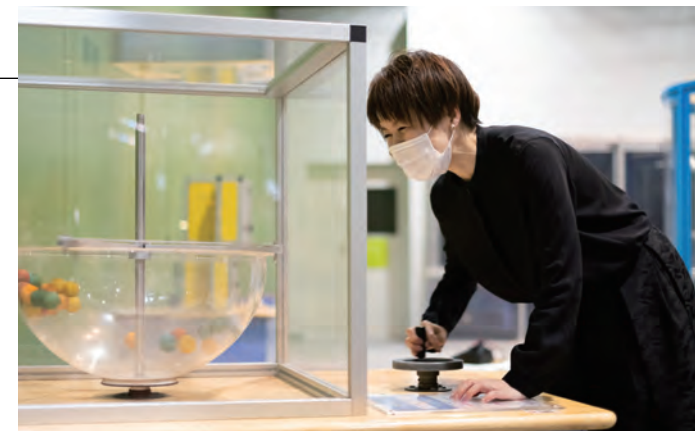
〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-26
06-6223-0055
9:30~17:00(入館は閉館の30分前まで)
月曜日(祝日・休日の場合は翌平日)、 展示替期間、年末年始
Osaka Metro御堂筋線・京阪本線 「淀屋橋」1号出口、 Osaka Metro堺筋線・京阪本線 「北浜」26号出口それぞれより約400m、 京阪中之島線「なにわ橋」すぐ
展示会ごとに定める 中学生以下無料
www.moco.or.jp/
Insta: @moco_press

休館期間：2022年2月7日~2024年春ごろ



## リニューアル情報

改修工事後の大阪市立東洋陶磁美術館のエントランスは、高さ7mのガラス張り、四隅に柱がなく、中央の「らせん階段」部分が屋根を支えます。開放感のある新しいエントランスが皆さまにご利用いただけるのは2024年春の予定です。どうぞご期待下さい!



大阪市立科学館



〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-1
06-6444-5656
9:30~17:00(展示場の発券・入場は16:30まで、プラネタリウム最終投影は16:00から)
月曜日(祝日・休日の場合は翌平日)、年末年始、臨時休館あり
Osaka Metro四つ橋線「肥後橋」3号出口より西へ約500m、京阪中之島線「渡辺橋」2号出口より南西へ約400m
展示場:大人400円 高大生300円 中学生以下無料 ※プラネタリウムは別料金
www.sci-museum.jp
X: @osaka_kagakukan, @gakugei_osm Insta: @osakasciencemuseum

休館期間：2023年11月6日~2024年夏



リニューアル情報

大阪市立科学館は、2024年夏にリニューアルオープンします。今回のリニューアルのスローガンは「他にない、みんなで科学を楽しむ、快適空間の構築をめざして」。科学を楽しむ快適空間へと進化する科学館にご期待ください!

学芸員が語る Museum Column

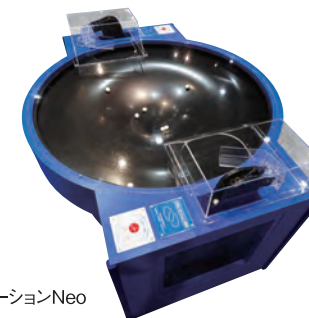


天文学 学芸員 石坂 千春

宇宙にあまねくつながる真理。私たちがここにいる奇跡。

私は子どもの頃から星の瞬く空を見上げるのが好きでした。闇の向こうの異世界を想像したり、宇宙旅行を妄想してみたり。宇宙への憧れが学びに変わり、学芸員の仕事に就いた今も、まだ解明されない宇宙の謎にワクワクしています。特に私が惹かれるのは、見えない重力の作用。宇宙に存在するすべてのものは重力でつながっています。私たちは地球に引かれ、地球は太陽に引かれ、太陽は他の星とともに銀河に引かれ、銀河は他の銀河と引き合いながら宇宙を動いています。どれ一つとして例外はありません。そして地球が生まれたのも、太陽が生まれたのも、銀河が生まれたのも重力の作用。重力に引かれて物体が集まる時、中心に近づけば近づくほど速く運動し、渦を作ります。これを「ケプラー運動」といいます。重力の作用で生まれた結果として、地球も太陽も他の星たちも銀河も、みんな回転しています。重力の存在は宇宙のあらゆるところを貫く真理なので、太陽のような星はそれこそ星の数ほどあり、その周りを回っている惑星は幾千も発見されています。しかし、地球のように生命が誕生した星は、まだ見つかっていません。地球に生命が誕生し、私たちにつながるまでは、さらに気の遠くなるような奇跡の積み重ねが必要なのです。私たちと宇宙をつなぐ「重力」という真理と、私たちがここにいる「奇跡」を、空を見上げて感じてほしい…。そんな願いから、私はプラネタリウムの解説に臨んでいます。

ケプラーモーションNeo



す。また、湯川秀樹博士がノーベル賞に輝いた中間子に関する画期的な研究が、この地に息づいていました。

そして忘れてはいけないのが、プラネタリウム。2022年に生まれ変わったこの世界トップレベルのプラネタリウムは、座席をリクライニングして見上げれば、直径26.5メートルのドームに広がる宇宙。時間ごとに変わる投影内容に、あなたもきっと心を奪われるはず。スタッフの生の解説を聞きながら、都会の空に浮かぶ今夜の星を知るのも楽しいものです。

五感をたっぷり使った後は、科学館内のカフェで一息つくのも良いでしょう。そしてお土産には、ミュージアムショップのオリジナルグッズを手に入れるのもおすすめです。

大阪市立科学館は、科学の魅力に心躍る場所。ここでしかできない体験を、ぜひあなたも楽しんでください。



大阪が誇る科学の拠点、大阪市立科学館。ここは、ただ見て回るだけの場所じゃない。未来の科学者たちの好奇心を刺激する、夢とロマンに満ちた宝箱です。西洋風の建築物や美術館が点在する中之島エリアに大阪市制100周年を祝って開館したこの館では、子どもから大人まで科学の現象に触れることができます。

4階に足を踏み入れると、宇宙の神秘に触れることができます。隕石の冷たさを指先で感じたり、月の上でのリングの重さを体験できたりするなんて、きっとどんな授業よりも心に残るはず。太陽がどれほど大きいのか、そのしくみがどうなっているのかを、目の前の3Dモデルが教えてくれます。

3階は、私たちの日常に溢れる様々な物質や植物、天然由来の化学成分、医薬品の驚くべき性質に焦点が当てられています。この魅力的な場所で過ごすうちに、家庭や学校、職場などでの身近な出来事を新しい視点から見つめ、そこに潜む新たな価値を発見することができるでしょう。

2階にある展示エリアは、まるでわくわくが詰まった実験室のよう。キラキラした目でボタンを押し、レバーを引く子どもたちの姿が、ここがただの展示スペースではなく、学びと遊びのラボであることを物語っています。

科学館といえば、日本の科学史にも注目。ここには、アジアで最初のロボットとされる学天則の模型がありま



大阪歴史博物館



〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32
06-6946-5728
9:30~17:00(入館は閉館の30分前まで)
火曜日(祝日・休日の場合は翌日)、年末年始
Osaka Metro中央線・谷町線「谷町四丁目」 2号・9号出口
大人600円 高大生400円 中学生以下無料 ※特別展は別料金
www.osakamushis.jp/
X: @naniwarekihaku Insta: @osaka_museum_of_history

緑豊かな大阪城公園と難波宮跡公園に隣接して建つ大阪歴史博物館は、「都市おおさか」の歴史や文化を紹介する建物です。なかに入れば、古代から近代・現代にいたる大阪の豊かな歴史が語りかけてくれます。

まず、エントランスホールからエレベーターで一気に10階へ。そこはもう奈良時代の難波宮の大極殿です。原寸大に復元された空間には直径70センチもある朱塗りの円柱が立ち並び、当時の宮廷生活を彩った官人たちの姿もみえます。眼下には難波宮跡公園や大阪城公園が広がり、その美しい眺望は絶好のフォトスポットにもなります。また、地下に保存された難波宮の遺構では見学ツアーも実施しています。

エスカレーターで9階に降りると、信長と戦った本願寺の時代の大坂に到着です。江戸時代ゾーンでは文楽人形「浪花屋」を水先案内人に、水都の景色を楽しんでください。1/20のミニチュア模型では町の賑わいを再現し、そこでは活気あふれるなにわの町人たちの暮らしがいきいきと繰り広げられます。

続く8階は、なにわ考古研究所です。原寸大に再現した発掘現場を背景に、考古学の調査方法や遺構・遺物の見かたが学べます。土器パズルや地層パズルなど、楽しめるプログラムも人気です。

最後に7階では、いまでもその香りが残っている懐かしい大阪との出会いが待っています。大正末期～昭和初

期にひときわにぎわった心齋橋筋、道頓堀などの街角を、大きさ、雰囲気そのままに切り取ってリアルに再現。郊外住宅や町工場、道頓堀角座も実物大で再現されています。当時の記録映像とともに繁栄するモダン都市・大阪の街を歩くことができます。

大阪歴史博物館で、大阪の歴史が持つ奥深さと独特の魅力を、ぜひご自身の目でお確かめください。



## 学芸員が語る Museum Column



民俗学 学芸員 俵 和馬

山野や街を歩き、語りに耳を傾ける。目に映る風景、心に残る言葉の先に人の姿がある。

民俗学とは、世代を超えて伝えられた文物、すなわち民俗から人びとの暮らしぶりや歴史を考える学問です。民俗学では、対象となる地域へフィールドワークに赴き、見聞きしたことから、食文化や伝統行事、信仰、習慣などを考えます。一見すると、民俗は地方の村にしか残っていないように感じます。ところが、大阪の街を歩いてみると、あちこちに民俗をみつけることができます。たとえば、これは7階に展示している水呑地蔵の復元模型です。現在の中央区内久宝寺町に祀られており、現在は場所を移しながらも、いまなお地元の人に篤く信仰されています。水呑地蔵は脚気に靈験ありとされ、人びとがお参りしていたといいます。吊られた提灯をみると、「河内国十三峠」とあります。これは現在の大阪府八尾市神立に位置する十三峠のこと。この地蔵は、十三峠の水呑地蔵を分祀したものです。十三峠の水呑地蔵の前には霊水が湧き、この水が脚気など諸病に効くということで信仰されてきたのです。路傍の小祠から、都市大阪とさまざまな地域との時間や空間を超えた繋がりを感ずることができる。これが民俗学の魅力です。博物館を一步出たら、そこには民俗があふれています。

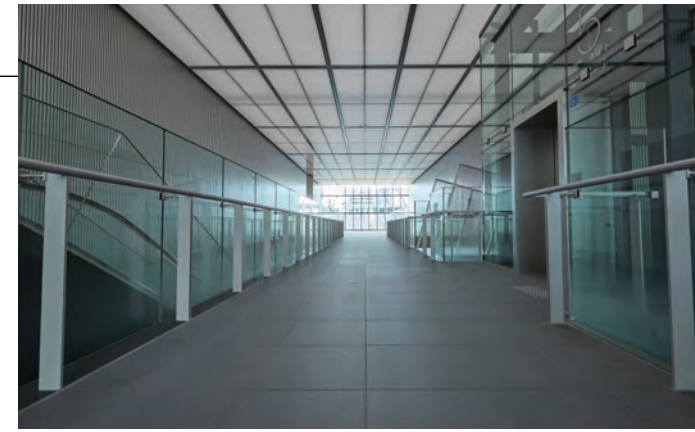


水呑地蔵



## 見どころ

江戸・京都とならぶ芝居興行の中心地だった大坂。9階「角の芝居復元模型」では、天保9年(1838)1月の興行の様子と町のにぎわいを再現しています。



## 大阪中之島美術館



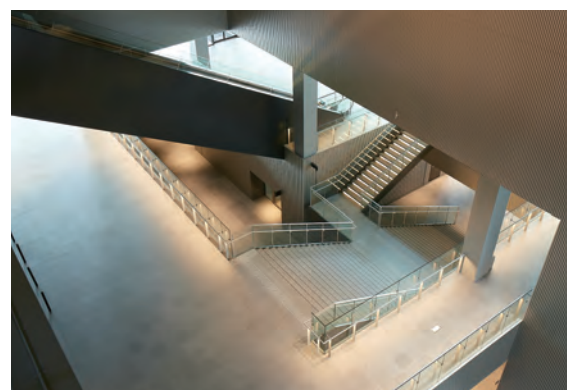
〒	〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-1
☎	06-6479-0550
🕒	10:00~17:00(入場は開場の30分前まで)
🗓	月曜日(祝日・休日の場合は翌平日)、 展示替期間、年末年始
🚶	京阪中之島線「渡辺橋」2号出口より南西へ 徒歩約5分、 Osaka Metro四つ橋線「肥後橋」4号出口より 西へ徒歩約10分、 JR「福島」、「新福島」2号出口より南へ 徒歩約10分
📧	展覧会により異なります
🌐	nakka-art.jp/
📱	Insta/X/Facebook: @nakkaart2022

大阪中之島美術館は、大阪市の中心部・中之島に2022年2月新しく開館した、目を引く現代的でユニークな外観を持つ新たなアートスポットです。フランス語で「自由に歩ける小径」を意味する「パッサージュ」という思想を建築の核とし、美術愛好家だけでなく、幅広い世代の誰もが気軽にアクセスでき、訪れる人にとって居心地の良い場所をめざしています。建物は5階建てで、複雑につながるフロアと大きな吹き抜けが特徴的です。これにより、天井や窓からの自然光が立体感を強調し、街の路地を歩くように館内を巡る楽しさを感じることができます。建物の入口は複数方向に開いており、1・2階のパッサージュは誰でも自由に出入りできる通路となっています。パッサージュは大阪のまちを移動する人びとが通り抜け、ときにアートを体感できる空間となり、中之島に新たな人の流れをもたらしています。

5階と4階、2つのフロアで開催される展示会は、国内外の優品を紹介する大規模な企画、コレクションを核とした大阪中之島美術館ならではのコンテンツ、大阪のアートシーンを掘り起こす意欲的なテーマなど、多岐多様にわたります。コレクションには、6,000点を超える19世紀後半から今日に至る日本と海外の代表的な作品が含まれ、日本画、油彩画、彫刻、水彩・素描、版画、写真、映像、グラフィックデザイン、プロダクトデザインなど幅広い分野をカバーしています。

美術館は、「協働する美術館」「共育する美術館」として、多様な第三者との連携やラーニングプログラムを積極的に実施しています。施設には、300名を収容できるホール、ワークショッブルーム、屋外の芝生広場などがあり、会議やレセプションなど様々な用途で利用可能です。地域社会との積極的な交流も重視し、芝生広場ではマルシェを開催したり、冬にはイルミネーションを行ったりするなど、地域の人々が楽しみ、憩う場を提供しています。これらの活動を通じて、美術館は単なる展示の場を超え、文化的な交流の場として大阪の魅力を高める重要な役割を果たしています。

大阪中之島美術館は、美と建築、地域社会との融合を楽しむ場所。ここでしか味わえない文化の魅力に触れ、心豊かなひとときをお過ごしください。



### 学芸員が語る Museum Column

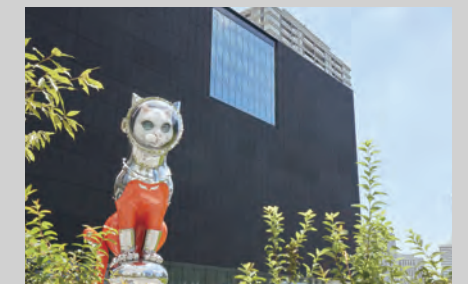


デザイン 学芸員 北廣 麻貴

30歳で亡くなった佐伯祐三の人生と作品をたどり、見えてきたこと。

私の専門はデザインですが、佐伯祐三展(2023年)の準備にあたり、図録編集にたずさわりました。図録には作品や出品歴、年表などが記載されていますが、私は蓄積されてきた佐伯祐三に関する情報をアップデートしていく作業を担当。人生とともに作品をたどると、その独自性に改めて驚かされます。特にダイナミックな筆の動きと、踊るような線の美しさ。正面から建物をとらえた絵が多いのですが、輪郭線に勢いがあり、細かな部分の描写は一本一本繊細ながらもためらいを感じさせません。レンガの描き込みには同系色のグラデーションが目立ち、旺盛に絵具を使っていることがわかります。若くして家族を連れてパリに渡り、画家モーリス・ド・ヴラマンクに「アカデミック!」と一蹴されたものの、貪欲に描き続けた佐伯祐三。2度目の渡仏の際に、心身を病みながら屋外で描くことのできた最後の作品のひとつと言われているのが、この《黄色いレストラン》です。30歳で亡くなるまでのたった4年余りの本格的画業のおわりに、佐伯祐三はパリの街でどんな思いでこの絵を描いたのでしょうか。見れば見るほど新しい気づきがある作品です。

佐伯祐三  
《黄色いレストラン》  
1928年  
※常設展示はありません



### 見どころ

随時開催される多様な展覧会だけでなく、マルシェやイルミネーション等季節ごとのイベントも楽しめる。2階の芝生広場では、美術館の守り神《SHIP'S CAT (Muse)》がお出迎え。1・2階は自由に出入りが可能。